



# 槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話: 048-756-0254

FAX: 048-758-7483

HP: <http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>Mail: [iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp](mailto:iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp)

## 「守破離(しゅ・はり)」の道

校長 小林 成行

新たな年、平成28年(2016年)がスタートしました。皆さんは今年どんな目標を立てましたか。これから1年生は『未来くるワーク』(職場体験学習)、2年生は『南郷自然の教室』へ向けての本格的な準備が始まります。また、3年生はいよいよ進学・就職等、進路決定の時期に突入します。どの学年も、充実した年となるといいですね。

一年の初めということで、今回は基本の重要性について触れてみたいと思います。皆さんは、千利休(せんのりきゅう)をご存じですか? 千利休は豊臣秀吉の時代に、これまでの“茶の湯”を“茶道”として一つの道にまで高めた人として知られています。利休はその道を守るため、主君から死を命じられた悲劇の人とも言われます。しかし、死んで何百年を経ても“茶道”は、日本はもとより外国にまでも広まり、多くの人々の心を捉えています。その“茶道の極意”とは何でしょうか。利休は、茶道の極意を『守・破・離』にあると喝破(かつぱ; 根本を見抜いて言い切る)しました。「守」とは、現在までに明らかになっている茶道を、しっかり身に付けると言う意味です。つまり、師匠の教えを正確かつ忠実に守り、物事の基本の作法・礼法・技法を守る学びの段階をいうのです。「破」とは、身に付けた技や形を更に洗練させ、自己の個性を創造する段階をいいます。「離」とは、「守・破」を前進させ、新しい独自の道を確認させる段階をいいます。スタート点は「守」です。もし、この「守」の段階をいい加減にしていきなり「破」・「離」に行ったらどうなるのでしょうか。それは、基礎工事がいい加減な土台の上に、建物を建てた事と同じ事になるのです。その意味で利休は「守」の重要性を強調しています。しかし、このことは“茶道”の世界だけでなく、全ての分野に共通する事ではないでしょうか。絵画の世界を例にしましょう。あの有名なピカソの絵は、絵のわからない人が見ると(私もそうですが)、幼稚園児が描いたのではないかと思われるような形の物があります。しかし、ピカソがこのような絵を描くに至るまでには、正確なデッサンの積み重ねが基本になっています。ある先生は画を学ぶ人にまず徹底的にデッサンの力を磨き、そして次に模写をやらせます。名画そっくりに似せた筆使いと色を出させます。しかし、名画そっくりの絵が描ければ一流の画家として立てるかというところではありません。「守」だけでは似顔絵描きや映画館の看板屋にはなれても、画家にはなれないのです。そこから離れて「自分の絵」を創り出すのです。

「守」から「破」、「離」を皆さんの場合で考えると、「小・中学校時代は“守”の時代である」と言ってもいいでしょう。それぞれの教科の勉強は勿論のこと、挨拶や返事、言葉づかいや服装、人間関係まで、全てについて基本を身に付ける時期です。これが身に付いてこそ“個性”“TPO(時と場合に応じた)の態度”が育まれていくのです。何事も、基本が大切なのです。



何事も  
基本ゾ!

